

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

小中学生の部

奥の細道  
むすびの地  
大垣



令和八年二月度 入賞句一覧

投句数 八百十七句

高木 恵理 選

特選

はるのかぜヒュルンとまちをおどろかす

大垣市

ひび はるの(小二)

作者は「春の風」が吹いたときに柔らかな春の雰囲気を感じたのでしようね。下五の「おどろかす」という言葉は、何となく心が動かされるときにも使われます。春の風が、街に暮らす人々の心を動かし。一瞬にして暖かく包んだかのようにです。さらに「ヒュルン」というオノマトペが非常に効果的です。作者の感性が豊かに表現されている俳句です。

冬空にテスト終わりの深呼吸

加茂郡川辺町

石丸 奏太(中二)

透明で澄んでいるのに、張り詰めた空気の冬の空。春ののんびりとした空ではなく、鋭さをもった冬の空へ、大きく深呼吸する作者の様子を描いています。テストが終わった後なので、夕方に近い時刻なのでしょう。さらに冷えてきた夕刻の空。大きな空を見上げつつ、やりきったテストに少しほっとしている安心感も伝わってくる俳句です。

ゆきあそびゆきをくらってゆきまみれ

大垣市

わたなべ ゆいと(小一)

「ゆき」の繰り返しが効果的です。雪遊びですから、最初は雪をかき集めたり、手形をつけたりして、柔らかな雪の感覚を楽しんでいたのでしょうか。それがだんだん本気を増し、激しくなってきたようです。「雪をくらって」という言葉は、強い衝撃を受けた様子を表しているからです。気持ちを表す言葉を使わず、様子をうまく表現している俳句です。

秀逸

年こしはババぬきをしておおわらい

大垣市

たまだ るな(小二)

冬の朝耳赤くして門くぐる

加茂郡川辺町

加藤 龍之介(中二)

ココア飲む君の湯気まで好きになる

加茂郡川辺町

吉田 心優(中一)

弟のサンタになつたクリスマス

加茂郡川辺町

工藤 結奈(中三)

朝の会はじまるまえに雪合戦

加茂郡川辺町

福園 恵菜(中三)

もうすぐで卒業だねと友という

加茂郡川辺町

谷 咲羽(中三)

しゃぼんだまあわあわあわとんでいく

大垣市

いしばし りれい(小一)

おにはそとわすれるくせをおっぱらえ

大垣市

ほそい みはる(小一)

げんかんにままとつくったしめかざり

大垣市

鈴木 咲彩(小二)

チューリップまつかな赤で応えん団

大垣市

渡部 美柚(小五)

入選

小中学生の部

雪が降り地球がどんどん白くなる

加茂郡川辺町

井戸 奏翔(中二)

雪だるまみんなの話聞いている

加茂郡川辺町

木下 さら(中二)

えき前に小さな小さな雪だるま

加茂郡川辺町

田原 遼一(中二)

おやすみ中ドサツと雪の音が鳴る

加茂郡川辺町

田口 璃人(中二)

楽しさとさみしさ混じりて年を越す

加茂郡川辺町

佐脇 優(中三)

冬の空だけどほっぺは桜色

加茂郡川辺町

神農 はな(中三)

書初や今年の決意四文字に

加茂郡川辺町

村山 心菜(中三)

雪だるま崩れた時の君の顔

加茂郡川辺町

後藤 玲音(中三)

黒板に残る思い出春の風

加茂郡川辺町

高井 菜々美(中三)

雪つもりこしをいためた雪だるま

加茂郡川辺町

藤田 唯那(中三)

白い息言葉にする前消えていく

加茂郡川辺町

木下 愛琉(中三)

マフラーをほどけば広がる昼の声

加茂郡川辺町

土屋 奈々(中三)

年まつに祖父のおはかへごあいさつ

大垣市

中村 朱里(小四)

おにはそとわたしのいかりとんでいけ

大垣市

ひび はるの(小二)

たんぽぽがちらちらしてるかわいいな

大垣市

たか木 はな(小二)

いちごがりあかいいちごはかくれんぼ

大垣市

戸田 台晟(小二)

雪の朝よろこぶ私あせる母

大垣市

大平 葵依(小二)

ゆきだるまいちねんぶりのさいかいだ

大垣市

たむら いおり(小三)

雪ふってバスのまどがわとり合いだ

大垣市

松岡 奏芽(小三)

さむくてもげんきにそとであそびたい

大垣市

よこた みのり(小三)

選者吟

祝ひとつ福もうひとつ梅ひらく

恵理

